

## 表彰

## 日本油化学会功績賞

## 中 辻 洋 司 氏

(元大阪工業大学教授)



中辻洋司先生は1974年に大阪大学工学部応用化学科をご卒業になり、同大学院工学研究科応用化学専攻後期課程を1979年に修了されるとともに工学博士の学位を授与されました。直ちに工学部助手(応用化学科)に任官され、その後同学講師、助教授を経て、2004年大阪工業大学教授に就任され、2016年に定年でご退職になりました。さらに1年の特任教授期間を含む長きにわたる教員生活を通して教育研究に邁進され、多くの有為な人材を産業界や学界に輩出されました。

先生は、本会創設メンバーの一人である小森三郎先生の研究室で卒業研究に取り組み、当時助教授であった岡原光男先生のご指導を受けられました。初めての学会発表は1974年に大阪大学工学部で開催された第13回油化学討論会研究発表会であり、小森、岡原両先生との連名での発表は、現在に至るまでの日本油化学会における活動の原点になったと伺っております。

先生は、岡原光男先生と池田功先生のご指導のもと、主としてホストゲスト化学の分野で多くの成果を上げられました。分子認識能を有する大環状多座配位子およびその非環状同族体の分子設計と合成、並びにその機能に興味を持たれ、数多くの独創的な新規化合物を開発されました。代表的な金属イオン分離法である液膜輸送において、pH制御により濃度勾配に逆らって選択的に能動輸送を行い得る輸送担体を開発しております。特筆すべきは、異種の $\text{Na}^+$ と $\text{K}^+$ を双方向に能動輸送する新規大環状化合物の開発であり、人工系においてその機能の創出に世界ではじめて成功されました。その他にも、水中で $\text{Ca}^{2+}$ を選択的に認識して蛍光を発する分子、界面活性剤のCMC検出法として使用できる蛍光応答性分子、アミノ酸誘導体のキラリティーをNMRで見分けるシフト試薬等を開発され、ホストゲスト化学の発展に多大な貢献をされました。これらの研究に対し、1990年に本会から進歩賞を授与されております。

本会においては、若手の会委員(1986~1994年度)に始まり、油化学編集委員(1993~1995年度)、企画・部会統括委員(1997~2002年度)、学会賞等選考委員(1998年度)、国際交流委員(2000~2003年度)、*J. Oleo Sci.*誌編集委員(2001年度~現在)、理事(2003~2004年度)、役員等候補者推薦委員(2007~2008;2010~2012年度)等を歴任され、本会の運営、発展に貢献されました。専門部会は、主に界面科学部会で活躍され、部会長(2001~2002年度)も務めておられます。関西支部においては、常任幹事(1990~2005年度)、その間、副常任幹事長(2001~2002年度)を経て、常任幹事長(2003~2004年度)を務められました。その後も幹事(2006~2008年度)、支部監査(2009~2017年度)、支部顧問(2018年度)として、長年にわたり関西支部の活動を支えてこられました。また、岡原研、池田研に関西支部事務局が置かれていた折には、庶務全般を担当されました。

年会が関西支部担当で開催された折には、様々な形で年会の準備・運営に参加されました。特に、岡原光男先生、池田功先生が実行委員長を務められた年会では庶務担当の中心として、小松満男先生が実行委員長をされた第43回年会では副実行委員長として、その実施・運営に貢献されました。また、米国油化学会とのジョイントミーティングとして開催されたJAWC2000では、大場健吉組織委員長のもとで、池田功実行委員長を支え、実行委員として庶務全般を担当されました。国際会議開催に向けて準備段階から参加できたことは、先生にとって大変貴重な経験であったと伺っております。

以上のように、中辻洋司先生の日本油化学会における長年にわたるご貢献は功績賞に誠にふさわしいものであり、ご受賞を心よりお慶び申し上げます。

(大阪工業大学工学部応用化学科 村岡雅弘)